



株主の皆様へ

2022年度(第70期)上半期
2022年4月1日~2022年9月30日

コミュニケーションツールのご案内

「CSR報告書2022」を発行

当社は、これまで投資家をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様を支えられ、60年以上にわたりのづくりを続けてきました。「世の中のお役に立ちたい」「世界中の人々を笑顔にしたい」という思いでものづくりを追求しながら、当社は“持続可能な社会の実現”に取り組んでいます。9月末に発行した「CSR報告書2022」では、当社が昨年1年間この実現に向けて取り組んだ活動を紹介しています。



CSRの取り組みはこちらからアクセスしてください

八千代工業 CSR



Index

ご挨拶／	
当上半期の連結業績および取り組みについて	1
連結財務諸表	2
地域別セグメントの業績(上半期)	3
トピックス	4
製品紹介	5
会社概要／株式の状況	6
コミュニケーションツールのご案内	裏表紙

八千代工業株式会社

埼玉県狭山市柏原393番地
電話04 - 2955 - 1211(代表) <https://www.yachiyo-ind.co.jp/>



八千代工業株式会社

証券コード:7298



ご挨拶

株主の皆様には、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

私は本年6月に代表取締役役に就任しました。当社が将来にわたってモビリティ領域のキーカンパニーとして、お客様や社会に貢献し、輝き続けられるようチャレンジしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

代表取締役社長 可知 浩幸

当上半期の連結業績および取り組みについて

当上半期の連結業績について

当上半期の業績は、依然として半導体供給不足による受注の減少はあるものの、アジアでの新型コロナウイルス感染症による生産減に伴う受注の減少からの持ち直しや、為替差益などにより、増収増益となりました。

これらの業績を踏まえ、中間配当は今年5月の決算発表時に公表しました1株につき9円に対し増配の17円とし、期末配当についても同様に9円の予定に対し17円、年間234円を予定しております。

当上半期の取り組みについて

当上半期は2020年4月にスタートした第14次中期「さらなる成長の基盤づくり」の最終年度であり、その仕上げに向けて推進してきました。

新たな販路の拡大では、タイで現地の二輪車メーカーから塗装部品を受注したほか、米国で電着塗装部品を受注しました。また、日本国内においては、ダイハツ工業様から新たな機種の樹脂製バンパーを受注しました。サンルーフでは競合メーカーに対し競争力のある製品で受注量を拡大しました。製品の開発では、フルドライカーボン製のHonda S660用リアフードを開発し、今年10月17日に発売を開始しました。そのほか、引き続き競争力のある樹脂部品の開発を推進しています。

事業基盤の盤石化では、北米においてパノラマサンルーフの需要が拡大したことから、現地での生産に向けて、構

成する樹脂部品の内製化、同一ラインで大きさ・タイプの異なる製品が組み立てられるようにするなど、生産体質の向上を図りました。

品質保証体質の強化では、生産工程の変化時や、新機種の量産開始時に製品不具合の発生を抑えるよう、管理項目の遵守、作業従事者の習熟などを徹底しました。

人と組織の活性化では、風土改革を実現するため、従業員自らが考えたアイデアを具現化するアイデアコンテスト、経営層と従業員との相互理解の改善を図るなどの施策を推進しました。また、育児休職制度の充実など、従業員の働きやすさを考慮した制度を積極的に活用してもらえよう働きかけをしました。そして、海外の生産拠点では、従業員の家族を招いた交流イベントを開催するなど、活性化に向けた施策を展開しました。

社会貢献活動では、地域の福祉施設と連携し生活用品などを提供する取り組みを実施したほか、海外拠点においては地域の学校へ学用品などを提供しました。

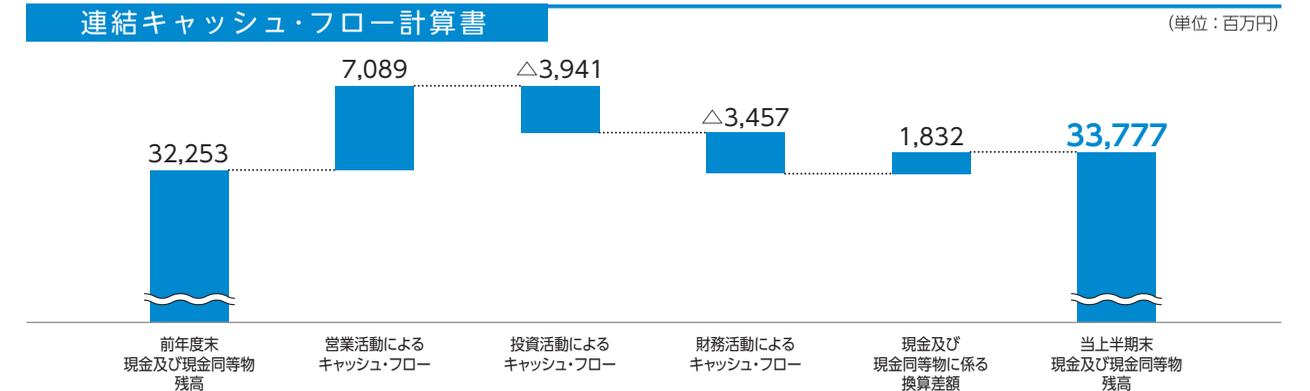
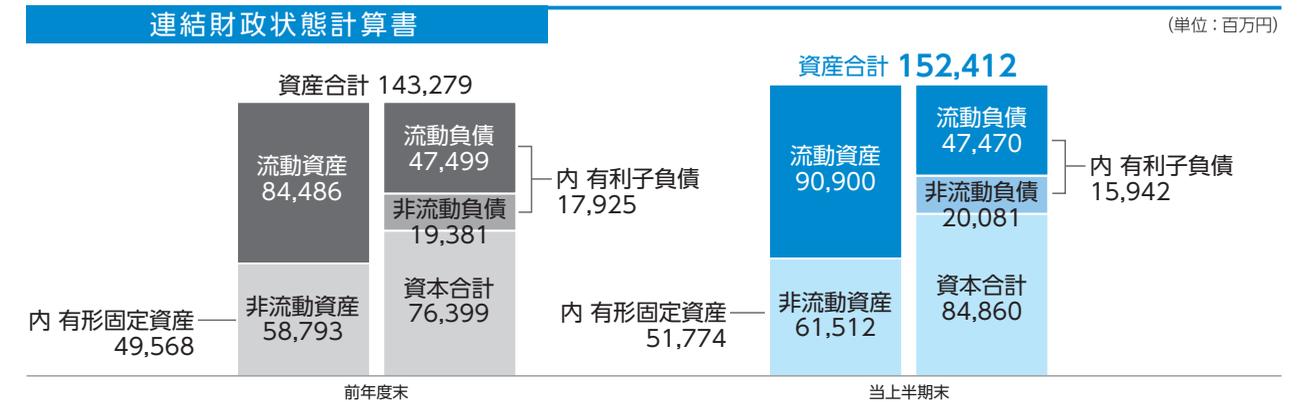
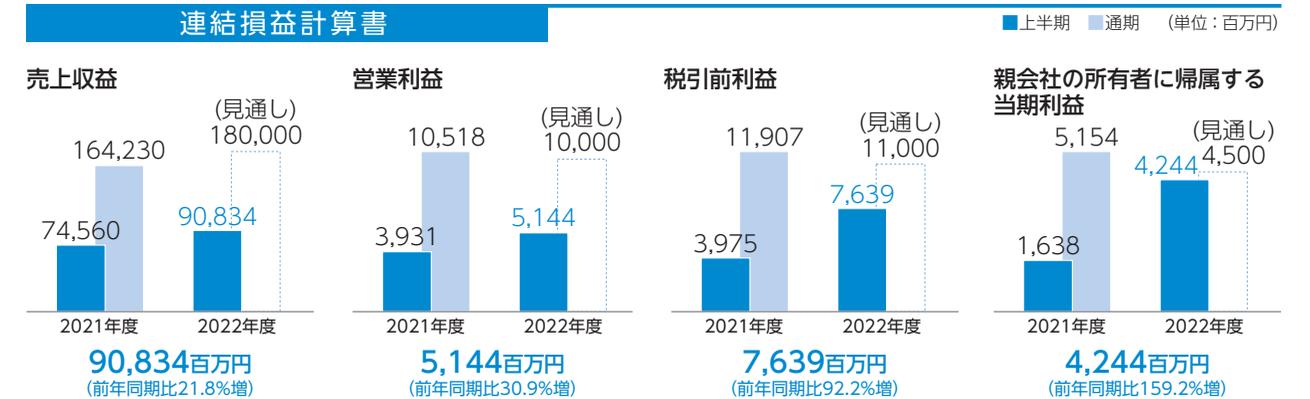
カーボンニュートラルへの対応では、2050年の達成に向けたロードマップの作成を推進しました。

当上半期を経て、概ね当初の目標を達成できる状況です。当期末に向けて、各種推進項目を加速させ、当初の目標を確実に達成できるよう邁進してまいります。

株主の皆様には今後とも長期的なご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

連結財務諸表

当社は、国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。



中国 🇨🇳

売上収益 **28,364**百万円
(前年同期比 5,744百万円 増)

税引前四半期利益 **4,967**百万円
(前年同期比 1,263百万円 増)

連結子会社 **2**社

- 依然として半導体供給不足による受注の減少はあるものの、為替換算上の影響などにより増収
- 原価改善効果などにより増益

日本 🇯🇵

売上収益 **11,964**百万円
(前年同期比 17百万円 減)

税引前四半期利益 **1,089**百万円
(前年同期比 297百万円 増)

連結子会社 **2**社

- 為替差益などにより増益

アジア 🇻🇳 🇮🇩 🇵🇭 🇮🇳

売上収益 **32,931**百万円
(前年同期比 7,070百万円 増)

税引前四半期利益 **1,653**百万円
(前年同期比 882百万円 増)

連結子会社 **7**社

- 新型コロナウイルス感染症による生産減に伴う受注の減少からの持ち直しや、為替換算上の影響などにより増収
- 受注の増加などにより増益

米州 🇺🇸 🇲🇽 🇧🇷

売上収益 **17,575**百万円
(前年同期比 3,477百万円 増)

税引前四半期利益 **△174**百万円
(前年同期比 1,225百万円 増)

連結子会社 **7**社

- 依然として半導体供給不足による受注の減少はあるものの、機種構成差や為替換算上の影響などにより増収
- 為替差益などにより利益改善

(ご参考) 製品別の売上収益

サンルーフ	27,596百万円 (前年同期比 6,722百万円 増)	二輪部品	33,721百万円 (前年同期比 5,919百万円 増)
燃料タンク	22,775百万円 (前年同期比 3,138百万円 増)	その他*	6,743百万円 (前年同期比 495百万円 増)

売上収益 **90,834**百万円

*その他の内訳…補修パーツ、板金部品、樹脂・塗装など

I グローバルで取り組む販路拡大

グローバルで取り組む販路拡大活動が実を結んでいます。塗装部品では、以前より取引のあるタイの二輪メーカー、GPX様からこれまで受注していた部品に加えて、17部品を新たに受注しました。また、米国の拠点では、当社の塗装技術が顧客から高く評価され、電着塗装部品を受注しました。これにより電着塗装工程における生産量は、前期比で約30%増加しました。そして、樹脂部品では、現在も鈴鹿工場取引のあるダイハツ工業様から3機種目となるバンパーを受注しました。

燃料タンクでは、マルチ・スズキ様向けで2機種目となる樹脂製燃料タンクの生産を開始しました。この燃料タンクはインドで今年8月に発売された「アルト」に搭載されています。

サンルーフでは、より競争力の高い製品を展開し、メキシコにおけるHonda様向け製品の受注を拡大しました。また、サンルーフを構成する部品の1つであるサンシェードでは、インドの完成車メーカーから新たに受注を獲得しました。



タイで受注拡大した二輪向け塗装部品



米国で新たに受注した電着塗装部品 (ペダル)



インドのマルチ・スズキ様のアルトに搭載する樹脂製燃料タンク



インドのマルチ・スズキ様のアルトに搭載する樹脂製燃料タンク

II 米国におけるサンルーフの生産ラインナップを拡充、同時に生産効率化を推進

北米市場向けにパノラマサンルーフを開発し、米国での生産を開始しました。

従来のスモールサイズSUVやセダン向けのパノラマサンルーフに対し、より大型のミドルサイズSUV (Honda PILOT) に合わせサイズの拡大を図っています。

これまで、パノラマサンルーフは中国で生産し米国へ供給していましたが、北米での需要拡大に伴い、現地生産へ変更しました。

スタンダードサンルーフを生産していたラインに、2つの異なるタイプのサンルーフの生産ができるように改修を行うとともに、工程の一部を自動化するなど効率を向上させました。

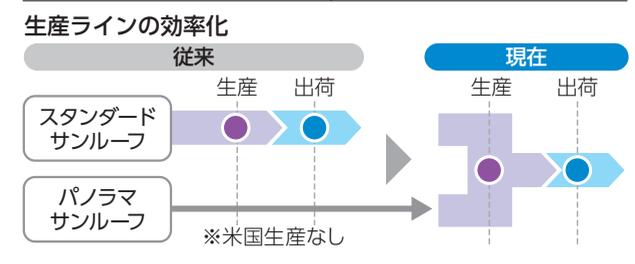
同時に、燃料タンクの内蔵機能部品を生産している樹脂成型機を活用し、パノラマサンルーフを構成する樹脂製部品も内製化することで、設備稼働率を上げ生産体質の向上を図りました。



Honda PILOT向けパノラマサンルーフ



生産をする米国の拠点 ヤチヨマニューファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー





製品特集

Honda S660用 フルドライカーボン製のリアフードを2022年10月17日に発売



10月に行われたHonda BEAT & S660のオーナーズイベントで注目を集めました。

商品紹介・販売サイト



Yachiyo Custom Parts for Honda S660

継ぎ目のない仕上がり



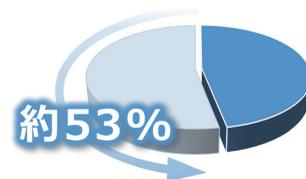
職人が型に合わせて一つひとつ丁寧に積層することにより継ぎ目のない美しい仕上がりを実現しました。

カーボンの美しさが際立つ外観



創業時から培ってきた塗装技術によりカーボンの美しさを最大限に引き出し、高級感漂う外観に仕上げました。

大幅な軽量化を実現



製品を構成する外板部と骨格部をカーボンで成形することにより、純正品と比べ約53%の軽量化を実現しました。

会社概要

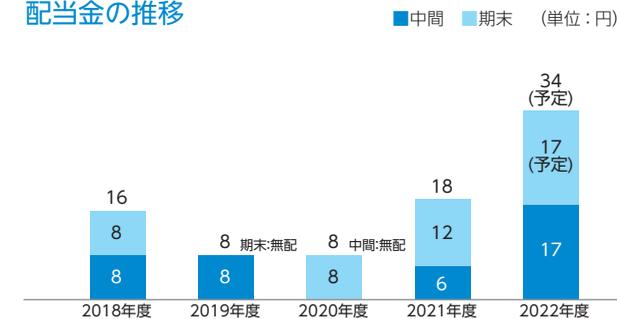
社名	八千代工業株式会社
英文社名	Yachiyo Industry Co., Ltd.
設立	1953年8月27日
資本金	3,685,600,000円
従業員数	単独 790名 連結 6,379名
本社	〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地 電話 04-2955-1211(代表)

役員

代表取締役社長	可知 浩幸	常務執行役員	木原 浩之
常務取締役	三島 清憲	常務執行役員	堀田 貢市
取締役	志賀 幸光	常務執行役員	和田 尚宏
取締役	藤井 康裕 ^{※1}	常務執行役員	太田 貞幸
取締役	飯田 藤雄 ^{※1}	常務執行役員	橋本 行弘
常勤監査役	根岸 昭雄	常務執行役員	濱田 健二
監査役	富永 和也 ^{※2}		
監査役	松本 卓也 ^{※2}		

※1 藤井 康裕氏および飯田 藤雄氏は、「会社法」第2条第15号に定める社外取締役です。
※2 富永 和也氏および松本 卓也氏は、「会社法」第2条第16号に定める社外監査役です。

配当金の推移



株式の状況

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式の総数	24,042,700株
株主総数	3,411名

大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%) [*]
本田技研工業株式会社	12,103	50.4
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	890	3.7
大竹 好子	769	3.2
株式会社三井住友銀行	457	1.9
埼玉車体株式会社	438	1.8
株式会社三菱UFJ銀行	350	1.5
大竹 讓司	341	1.4
大竹 隆之	333	1.4
大竹 守	326	1.4
大竹 修	306	1.3

※持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況

